

伝え 伝わり つながる

帰宅すると、居間のテーブルに学校からの連絡プリントと娘の作文が置いてありました。日頃あまり娘と話をすることがなく、気になって読んでみました。

私は吹奏楽部の部長をしています。地域のイベントで吹奏楽部が出演することになり、楽しいコンサートにしようと張り切っていました。

合奏練習中、私は自分たちが楽しくなければ、お客さんも楽しめないと思い、指揮台に立って「もっと楽しく」「もっといきいきと」と声をかけるのですが、私のイメージ通りにならず、「あまり楽しさが伝わってこない。それに演奏もバラバラ。」と注意しました。すると、

「頑張ってるのに、そんなこと言われたくない。」

「あれこれ注意するけど、細かいこと気にしすぎだって。」

と、みんなは口々に言い返すのです。私は思わず「そんないい加減な気持ちだと、お客さんに失礼じゃないの」と言い返してしまいました。みんなは不満そうな顔をしています。

最近、演奏にまとまりがなく、私は部長として正しいことを言ってるのに、自分の思いが伝わらず、合奏が楽しくありませんでした。

ある日のことです。打楽器メンバーが練習をしている様子が気になって廊下越しで見えていました。

「曲の最初のところをどう叩いてる？」

「このリズムを強調したいから、こう叩いてるけど、思うようにできないの。どうしょ。」

「ふーん。そこを強調したいのだったら、こう叩くとよくない？やってみて。」

「あっ、本当！その手順で練習するよ。」

みんなで意見を出し合いながら練習を進めていました。みんな楽しそうで、合奏の時と雰囲気の違いが違います。打楽器メンバー全員で曲づくりに取り組んでいる姿に目を奪われました。

その時、ハッとしました。

『合奏の時、みんなの気持ちを受け止めず、一方的に伝えていただけだ。しかも私は、伝わらないことを周りのせいにして、自らみんなとのつながりを断ち切っていたのではないか。』
—ねえ、一緒に音楽しようよ。—

打楽器の音が、そう私に伝えているように聞こえました。そして、「音楽は一人でするものじゃない。必ず周りの音を聴かないとそろいません。だから、お互いが認め合わなければ演奏は成立しませんよ。」と話された顧問の先生の言葉を思い出しました。

そのあと、合奏練習を始める前に、私は「私たちとお客さんが一緒に楽しめる演奏にするにはどうしたらいいか、みんなの意見を出してください。」ときいてみました。最初は私の態度の変化にとまどっていましたが、やがて何人かが意見を出してくれました。

「私たちが妥協せずにもっと曲づくりにこだわってみようよ。」

「手拍子や動きも演奏と同じくらいにしっかりしたらどうかな。」

「いろいろ意見を出しながらやってみましょう。」

その日は今までと違い、「一緒に曲をつくっている」雰囲気のある合奏になりました。お互いに思いが伝わりつながることで、音楽がこんなに変わるものかと感じました。…

作文を読んでいる時、娘が居間にやって来て、「あっ、その作文読んでくれたの？」と声をかけてきました。

「ああ、今読んでるところだよ。部活でいろいろあったんやなあ。」と私が言うと、

「うん。部長になってから、なんとかしなきゃと必死で、周りがみえなくなっ、人との関わりで大切なことを忘れてたと思うの。でも、そのことに気づけたから、今はみんなと気持ちがつながっていて、部活が楽しくて仕方ないの。」と、笑顔で答えてくれました。

私は先週のコンサートで見せてくれた娘の笑顔を思い浮かべ、「伝え、伝わり、つながる」素敵な経験ができたんだなと思いながら、作文の続きを読み始めました。